

5) 新分野・新製品の開発

ーノベルティ、エクステリアー

川久保 正行・藤 靖之・関戸正信

新分野（食器外）製品の開発として、エクステリア分野のアイテム開拓を目的に、照明の持つ効果と磁器の素材の特徴を活かしたエクステリア製品の開発を行った。また、有田焼人形のブランド確立を目指し、雛人形の開発をおこない、町おこし事業に協力した。

1. はじめに

肥前地区の陶磁器産業は、高度経済成長以後業務用食器を中心とした生産を行ってきたが、旅行形態の変化等による旅館業の不振、外食形態の変化による食器需要減少により低迷を続けている。

ライフスタイルの変化に伴う食器需要の減少も日用食器の不振に繋がっており高価な外国製品との競合もさけられない現状である。

このような状況下において、17年度は、新たな陶磁器の市場の開拓を目的として、食器外製品（エクステリア、ノベルティ分野）の開発に取り組んだ。

エクステリア分野の成果は、技術ワークショップ支援事業として「エクステリア研究会」へ還元、地元組合、企業の協力を得ながら、求評活動を行った。

ノベルティ製品に関しては、ノベルティ研究会と共同で、雛人形の開発に取り組み、有田、伊万里の町おこしでの、雛人形製作支援を行った。

(1) エクステリア関連について

1. エクステリア業界の現状

住宅エクステリアの市場規模は年5,000億円、住宅着工件数が減少、その産業の規模は横ばいを維持している。ライフスタイルが変化していく中、住まいの装いも変化、純然たる和風は一変し、エクステリアに望む需要もシンプルモダンから和風モダンへその形態を変えようとしている。

2. 求評

エクステリア研究会会員と共に、成果物についての認知向上とプロユースとして必要な情報を得るために、各種展示会へ出展し、情報収集を行った。

第22回全国都市緑化フェア

「アイランド花どんたく」

出展期間：平成17年9月9日（金）～11月20日（日）



図1 出品例



図2 専門家との意見交換

- 第25回西日本トータルリビングショー
- 会 期：平成18年3月17日(金)～20日(月)
- 出品品目：門札／飾り小窓／灯籠／水栓柱／水鉢／スツール／テーブル／バーベキューテーブル／手洗い鉢 など



図3 会場の様子

図4 水栓柱／水鉢／照明



図5 表札／門札／照明

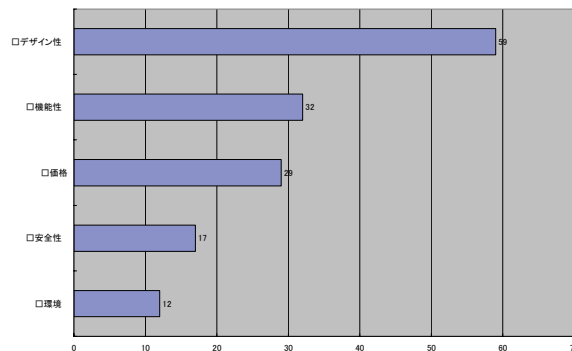
3. 結果、考察

第22回 全国都市緑化フェア
「アイランド花どんたく」
入場者数：1,146,361人

第25回 西日本トータルリビングショー
「住まいの守り」
来場者：27,110人

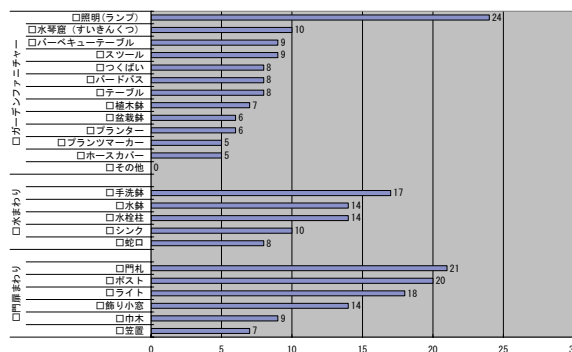
会場では、対話式でアンケートを集約し、約75名(男性31名、女性42名、不明2名)の方から意見を集約することができた。うち6割はプロのユーザーであり、有田焼をはじめとする陶磁器製住設商品についての反応はよく、特に門札への関心度は最も高かった。商品選択の基準としては、デザイン性をもっとも重視し、次いで機能性、価格の順であった。

表1 商品選択の基準



また、今後期待されるエクステリアアイテムについて調査したところ、門扉周り、水周りのアイテムに関心の高さが現れた。

表2 今後期待されるエクステリアアイテム



(2) ノベルティ製品の開発

1. はじめに

過去、肥前地区窯業界において、庶民生活、風俗をモチーフにした古伊万里人形等多くのノベルティ製品が生産された。しかし、近年はノベルティ製品の生産のほとんどが、干支の置物、仏像彫刻、ミクロス等である。

このような背景と業界からの強い要望もあり、当センターでは、ノベルティ産業の継承の必要性を認め、平成16年にノベルティ研究会を設立し、製品開発及び人材育成を目的に、肥前地区独自のノベルティ産業の確立を図ってきた。平成17年、有田町おこしとして雛人形製作の依頼があり、ノベルティ研究会と共同で、雛人形七段飾りを製作し、有田雛のやきものまつりに展示し、今年度も新たに雛人形を製作し、町おこしの支援を行った。

2. 試作

昨年の雛人形七段飾りは、商品を意識し製作した。今回は、町おこしを目的に、多くの集客ができるように「見せる雛人形」を研究会メンバーと企画、検討し、世界最大級の雛人形を製作した。大きさとして立ち雛の男雛で約60cmの高さである。種類として、立ち雛セット2種、座り雛二段飾りセット全20アイテムを素焼きまで当センターが担当し、絵付け及び焼成は研究会メンバーで行いました。また、エクステリアとして犬笛を製作し、これをマスコットとし、参加店の一体感を出すために、各商店オリジナルの絵付けで店頭飾られた。その他、お土産として犬笛グッズ(携帯ストラップ、キーホルダー等)、雛人形マグネットを製作した。



3. 展示

・「第2回 有田雛のやきものまつり」記者発表

期日 平成18年1月13日(金)

場所 佐賀県庁記者クラブ

伊万里市役所記者クラブ

内容 有田雛のやきものまつりのイベント内容紹介
世界最大の磁器の雛人形お披露目

・第2回 有田雛のやきものまつり

期日 平成18年2月4日(土)～4月3日(月)

場所 有田館

内容 世界最大の磁器の雛人形展示
磁器製雛人形七段飾りの展示販売
子供用食器の展示販売
イベントのマスコット犬笛グッズの展示販売



パンフレット



(有) しん窯



(株) 香蘭社



(株) 源右衛門窯



(株) ヤマトク



雛人形マグネット・犬管グッズ土産品



(有) しん窯



(株) ヤマトク



雛人形・子供用食器展示・販売



(株) 香蘭社





商店街風景

・秘窯の里ひいなまつり

期日 平成18年2月1日(水)～4月5日(水)

場所 伊万里市大川内山



(有) 畑萬陶苑

4.おわりに

食器外製品開発「ガーデニンググッズ」として本年度まで研究開発を行い、その市場性については十分な評価を得ることができた。また、市場調査の結果から、新たなエクステリア分野の可能性を生み出したが、商品としての規格やアイテムごとのプロのニーズを満たしていないことから、さらなる情報収集と研究開発が必要とされる。

エクステリア研究会の運営については、企業15社、関係組合の協力により当初の目的を達成することができたが、試作物を商品へ移行するには、販路開拓を目的とした構造改革が必要とされることから、その体制作りにおいては、今後の課題となった。

ノベルティ研究会においては、雛人形の開発、有田・伊万里町おこしについて年9回の協議、検討を

行った。研究会メンバー5社(しん窯、香蘭社、ヤマトク、源右衛門窯、畑萬陶苑)による、見せるための世界最大の磁器雛人形の提案がなされた。

有田雛のやきものまつりにおいて、マスコット犬笛の展示により商店街の統一感がだされ、町全体でのまつりに対して協力がなされた。お土産グッズ、子供用食器、雛人形等の販売もなされ、食に関しては、有田雛御膳を提案され、町全体、かなりの波及効果があった。期間中、有田館入館者数は、約1万8千人あり、昨年の1.4倍の集客があった。広報実績として、テレビ、ラジオ、新聞等の取材がなされ、また旅行業者の対応も多く、集客にもかなりの効果があったと思われる。

伊万里の秘窯の里ひいなまつりにおいても、昨年より多くの集客があり、来年から本格的に行いたいとのことであった。

町おこし事業支援としては、大成功であったと思える。今後、座り雛七段セットを完成させ、支援を行う予定である。